

平成26年3月14日

那須烏山市議会議長 佐藤 雄次郎 様

文教福祉常任委員会委員長 板橋 邦夫

### 所管事務調査結果報告書

平成24年第3回5月臨時会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

#### 1 調査期間

平成24年5月9日から平成26年3月14日まで

#### 2 構成委員

板橋邦夫、田島信二、高田悦男、中山五男、樋山隆四郎

#### 3 調査事項

- (1) こどもの教育に関する事項
- (2) 福祉・医療に関する事項
- (3) その他所管に属する事項

#### 4 調査結果

- ・平成24年11月26日にJA長野厚生連佐久総合病院を訪問し、「地域医療・保険予防について」を研修した。佐久総合病院は、高度医療と地域医療が高いレベルで両立されていることが特徴であるが、特に地域医療に関しては、その礎ともいえる存在である。現在も行政や福祉施設、住民組織とともに小回りの効く分院や診療所、地域の他の医療福祉機関との連携による多重的なネットワークを構築し地域の保健と医療と福祉を一手に担っており、その理念と手法には大いに学ぶべきところがあった。
- ・平成24年11月27日に長野県諏訪市役所において「子育てと仕事の両立を支援する施策について」を研修した。その中で子どもの一時預かりや送迎代行などの援助を行う「ファミリーサポートセンター事業」が印象に残った。これは、援助を受けたい会員と有料で援助を行う会員の連絡調整を行う事業だが、運営は子育て支援を目的に設立されたNPO法人に委託されている。民間の力を最大限に活用しており、大変有効な手法であると感じた。諏訪市ではこのほか、病児・病後児保育を行うなど、子どもを生み、育てる環境を各方面から整備している。こういった施策は定住促進の一助になると思われる、当市においても導入に向け調査研究を進めることを期待する。
- ・市の事業の現場を実際に見ることで、その効果や問題点を肌で感じることを目的に、平成25年11月29日に烏山小学校と向田ふれあいの里の視察を行った。烏山小学校では「英語コミュニケーション科」の授業を見学し視察した。この授

業は「英語に親しみながらコミュニケーションの楽しさに気づき、外国や自国の文化に興味を持てる」ことを目標としたものだが、楽しそうに手をあげ、英語で元気に発言する子どもたちを見て、英語やコミュニケーションへの興味、関心の醸成に大いに効果があるものと感じた。また、その後は「高齢者の居場所」として市が整備し、地元の管理運営委員会により運営されている「向田ふれあいの里」への視察を行った。関係者のご苦勞もあり、概ね順調に運営されている印象を受けたが、それだけに人材の確保の重要性を強く感じた。今後こういった施設は各地域での整備が必要となると思われるが、施設の整備のみならず、受け皿となる人材の育成にも傾注されたい。

- 民間の研究所が全国の市と特別区を対象に実施した「高齢化対策」に関する調査で小山市が1位になったことを受け、その考え方や取り組みについて教を請おうと、平成26年1月28日に小山市役所において研修を行った。小山市では「すこやか長寿プラン2012」に基づき予防から介護まで万遍なく網羅された高齢化対策を行っており、その中でも高齢者がいつまでも元気で暮らすための取り組みに特に力を入れていると感じた。当市においても前述の「ふれあいの里」事業などで同様の取り組みはされてはいるが、こういった先進地での優良事例を参考にし、さらなる充実を図ることを期待する。